

学校法人
専修大学

10年度事業計画・予算

2010年度学校法人専修大学の事業計画は、09年12月16日開催の理事会・評議員会で承認され、それに基つき編成された予算は、3月24日開催の理事会・評議員会で承認された。

事業計画の策定にあたり

創立150年に向け、骨太で着実な改革を推進

本学は、昨年9月に創立130年を迎えました。今年度の事業計画は、従前に増して教育・研究力の開発促進、教育研究環境の整備に重点を置き、策定しています。

専修大学は、教育組織に係る改革として、今年4月に文学部を再編して7学科体制とし、新学部として人間科学部を誕生させました。これにより、人文科学分野における学問領域の拡充を図ります。大学院においては、商学研究科に会計学専攻を開設し、既存の商学専攻と併せ、2専攻の体制とします。教育内容の改善として、教養科目等について半期化を図り、教育効果や学生の満足度を高めていきます。教育の質を裏付ける研究力の強化にあたっては、稼働している研究プロジェクトへの支援強化はもろろんのこと、新たな採択に向けた情報収集、態勢づくり等支援体制を増強させていきます。施設設備の整備については、教育研究面で教育研究用コンピュータシステム、Web履修登録システム、及び学内統合認証システムの刷新を図り、提供サービスの高度化に努めます。また、就学面においても、学生相談室の機能・環境の両面を強化させます。さらに積極的な「知の発信」に取り組むべく、

主な事業計画

I 教育・研究力の強化

- 1. 組織に関すること
 - (1) 新学部・新学科の開設
 - 10年4月1日に、心理学科と社会学科で構成される「人間科学部」を新設する。また、文学部の日本語日本文学、人文学科(社会学専攻を除く)の各専攻を学科に改組し、加えて、人文・ジャーナリズム学科を開設する。
 - (2) 大学院商学研究科会
 - 10年4月1日に、大学院商学研究科に会計学専攻(修士・博士後期課程)を開設する。
- 2. カリキュラムに関すること
 - (1) 経済学部のカリキュラム改正
 - 経済学部は、10年度入学者よりカリキュラム改正を行う。学生の職業選択に対応する既存のコース制や履修モデル制を踏襲しつつ、マーケティング学科では、専門導入基礎教育を充実させ、ビジネス倫理を教授する科目等を新設、また会計

委員会主催の意見交換会等を通じて、本書の効果的な活用方法を検討していく。

II 教育研究環境の整備

- 1. 教育研究用コンピュータシステムの更新
 - 情報科学センターは、10年4月から新教育・研究用コンピュータシステムを稼働させる。新システムは、最新のICT技術を取り込み、省電力・低発熱型機器の導入等により、グリーンIT化も実現する高性能かつ大規模なシステムである。
- 2. Web履修登録システムの更新
 - 10年4月から新教育・研究用コンピュータシステムを稼働させる。新システムは、最新のICT技術を取り込み、省電力・低発熱型機器の導入等により、グリーンIT化も実現する高性能かつ大規模なシステムである。

III 学生支援の充実

- 1. 学生相談室の充実
 - 学生相談室利用者が年々増加する現状を鑑み、機能・環境面での充実を図るべく、生田キャンパス学生相談室をグリーントップ地下1階に移転させ、開設する。
- 2. 資格取得支援講座の強化
 - 資格取得支援講座(法律総合講座、公務員試験講座、会計士講座)について、受講する1年次生が夏期休暇において集中的に学習に取り組み、合宿またはコースの導入を企画する。また、個別指導(面談)及び教材開発も継続して強化に努め、受講生の最終目標達成をサポートする。

IV 社会地域貢献の推進

- 1. KSコミュニティ・ビジネス・アカデミーの実施
 - 08年度の文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に3年間の予定で採択された「KSコミュニティ・ビジネス・アカデミー」を継続開講する。
- 2. 地方自治体との連携推進
 - (1) KSパートナーシップ・プログラムや多摩区・3大学連携協議会の推進
 - (2) 開かれた大学の推進

V 経営基盤の強化

- 1. 教育研究振興協力資金の募集
 - ①教育研究の充実、②教育施設設備の整備拡充、③奨学金制度の充実、④学生サポート活動の振興等を目的とした「教育研究振興協力資金」の募集を10年4月から13年3月まで行う。
- 2. 外部資金の確保
 - 文部科学省等から交付される補助金について、関係所管を対象とする説明会等を実施し、申請の促進及び

ための講座(税理士等会計専門職養成講座)を継続実施し、学生の上位級合格を支援する。

III 専修大学

- 1. 教育研究用コンピュータシステムの更新
 - 情報科学センターは、10年4月から新教育・研究用コンピュータシステムを稼働させる。新システムは、最新のICT技術を取り込み、省電力・低発熱型機器の導入等により、グリーンIT化も実現する高性能かつ大規模なシステムである。
- 2. Web履修登録システムの更新
 - 10年4月から新教育・研究用コンピュータシステムを稼働させる。新システムは、最新のICT技術を取り込み、省電力・低発熱型機器の導入等により、グリーンIT化も実現する高性能かつ大規模なシステムである。

II 教育研究環境の整備

- 1. 教育研究用コンピュータシステムの更新
 - 情報科学センターは、10年4月から新教育・研究用コンピュータシステムを稼働させる。新システムは、最新のICT技術を取り込み、省電力・低発熱型機器の導入等により、グリーンIT化も実現する高性能かつ大規模なシステムである。
- 2. Web履修登録システムの更新
 - 10年4月から新教育・研究用コンピュータシステムを稼働させる。新システムは、最新のICT技術を取り込み、省電力・低発熱型機器の導入等により、グリーンIT化も実現する高性能かつ大規模なシステムである。

I 教育・研究力の強化

- 1. 組織に関すること
 - (1) 新学部・新学科の開設
 - 10年4月1日に、心理学科と社会学科で構成される「人間科学部」を新設する。また、文学部の日本語日本文学、人文学科(社会学専攻を除く)の各専攻を学科に改組し、加えて、人文・ジャーナリズム学科を開設する。
 - (2) 大学院商学研究科会
 - 10年4月1日に、大学院商学研究科に会計学専攻(修士・博士後期課程)を開設する。
- 2. カリキュラムに関すること
 - (1) 経済学部のカリキュラム改正
 - 経済学部は、10年度入学者よりカリキュラム改正を行う。学生の職業選択に対応する既存のコース制や履修モデル制を踏襲しつつ、マーケティング学科では、専門導入基礎教育を充実させ、ビジネス倫理を教授する科目等を新設、また会計